ペチュニア「世界に一つだけの花」花回廊からおかえりなさい

大山小赤松分校

大山小学校赤松分校（17人）と大山小学校のたんぽぽ学級（3人）では、今年度、とっとり花回廊の育種の出前授業の一環で、ペチュニアの花の交配を行い育てています。このほど、花回廊で展示されていた自分たちの花が学校に帰り、「ペチュニアおかえりなさい会」を開きました。大きな株に大きな花が咲き、色あいも独特で、花を見た子どもたちは大きな歓声を上げていました。

この出前授業は、土に親しみ、花を咲かせる喜びを感じてもらおうと花回廊が行っているもので、5月18日に園芸講師として知られるとっとり花回廊の矢沢秀成さんが同校を訪れ、交配期間が短く、めしべとおしべが見えやすいペチュニアの花を使い、交配、種まき、育苗、開花までの世話の仕方を指導。子どもたちは地域の方と共に、色の違う同種の花の交配をし、育ててきました。その後、花は、花回廊で9月25日に行われたペチュニアの優秀品種の表彰式で最高育苗賞に輝き、園内の水上花壇に10月20日まで展示されました。

講師の矢沢さんは、一人ひとりにあてて書いたメッセージカードを渡し、「来年もぜひ交配に挑戦してたくさんのオリジナルな花を咲かせてください」と話されました。児童は、今までのたくさんの指導に対してお礼を言った後、「交配した後にたくさんの種ができてよかった。家でも花を育ててみたい」と話しました。

交配から開花まで皆で取り組み、大きな花が咲いたペチュニアを手にする児童たち。講師の矢沢さんらを囲んで

全日本ブラックアンドホワイトショー開催

11月12日・13日に、静岡県御殿場市馬術・スポーツセンターで、「第7回全日本ブラックアンドホワイトショー」が開かれました。

5年に1度開かれるこの大会は、全国ホルスタイン改良協議会が主催し、協議会傘下の酪農家の代表牛を一堂に集め、その体型、資質の改良水準を比較検討して、今後の改良に活かすことを目的に開かれ、196頭の出品がありました。

大山町からは、9月22日に鳥取県最終予選会で選抜された佐藤俊彦さん（萩原）飼養の「シュガー　セルマ　ストーマティック　ローチ　ナカヤマ」号が第10部（経産42月以上48月未満）に出品し、審査員から「乳房の改良具合がすばらしい」と評価され、見事、優等賞第4席に輝きました。

本牛は、本町の優良精液導入事業により生産された牛で、名前に「ナカヤマ」と付けられ、改良の成果が示されています。

この改良の成果を、町内で開催される乳牛共進会で、酪農家の皆さんが研修されることにより、牛の飼養管理や、良質な牛乳生産の向上が期待されます。

優等賞第4席に輝いた佐藤さんと出品牛

第10部審査（右から2番目が佐藤さんの牛）